

第1部 概説編  
ストーリーブックの目的と使い方

はじめに

知床の皆さんこんにちは。突然ですが、自身の町の特徴や誇りに思うコトを5個挙げてみてください。では10個はどうでしょう。それでは隣町の特徴を10個教えてください。なかなか難しかったのではないのでしょうか。知床に観光や運輸などで関わる皆さんこんにちは、知床のコトいくつか挙げられましたか。

知床半島を地図で見ると、先端から知床連山に沿って点々と町境が引かれています。知床は羅臼と斜里の2町にまたがっていますが、両区間を往来できるのは知床横断道路が開通している期間だけ。山と雪が移動を妨げ、知床についての理解を深める交流を難しくします。

本書は、エリアの垣根を越えて知床の価値を裏付ける物語を浮かび上がらせ、地元の人たちが知床を訪れた人たちに、分かりやすく伝えられるような「教科書」として活用してもらうことを想定しています。本書を両町のすべて町民のもとに届け、知床に対する理解の底上げを目指しています。

そして本書の活用がより多いと思われる宿泊施設や飲食店、ガイドや観光案内所、交通機関などで働く多くの方々にとっても、知床全体の魅力を今よりも深く理解してもらい、来訪者に伝えるための「羅針盤」となれることを願っています。

環境省 釧路自然環境事務所

この本のつかいかた

「知らないこと、知床。」というタイトルがついた  
正式名称『知床インタープリテーション全体計画』は、こうやって使っていただくと楽しいです。

その1

まず読んでみる

知床の知らないこと、知っていたけど実は知らなかったこと。いろいろ載っています。そんなの知ってた!という方は知床のマエストロです。それは知らなかった!という方は、新たな発見おめでとうございます。

その2

人に話してみる

この本は「知床の元ネタ帳」のようなものです。観光でいらした方に知床のことをお話しするとき、実はですね…とさらに深いお話をすることができます。地域の皆さん、特に子どもたちに話して聞かせるというのも素敵ですよ。

その3

確認につかう

なんとなく知っていた知床のこと。でも、本当のところはどうだったっけ?という時に、この本を開いてみてください。次にお話しするときに、自信を持ってお伝えすることができます。



もくじ

第1部 概説編 ストーリーブックの目的と使い方

はじめに	00
この本の使い方	00
IPとIP全体計画とは？	00
ストーリーブックの目的と構成	00
知床を知り・守り・楽しむ楽しむためのストーリー 一覧	00

第2部 ストーリー編 知床を知り・守り・楽しむためのストーリー

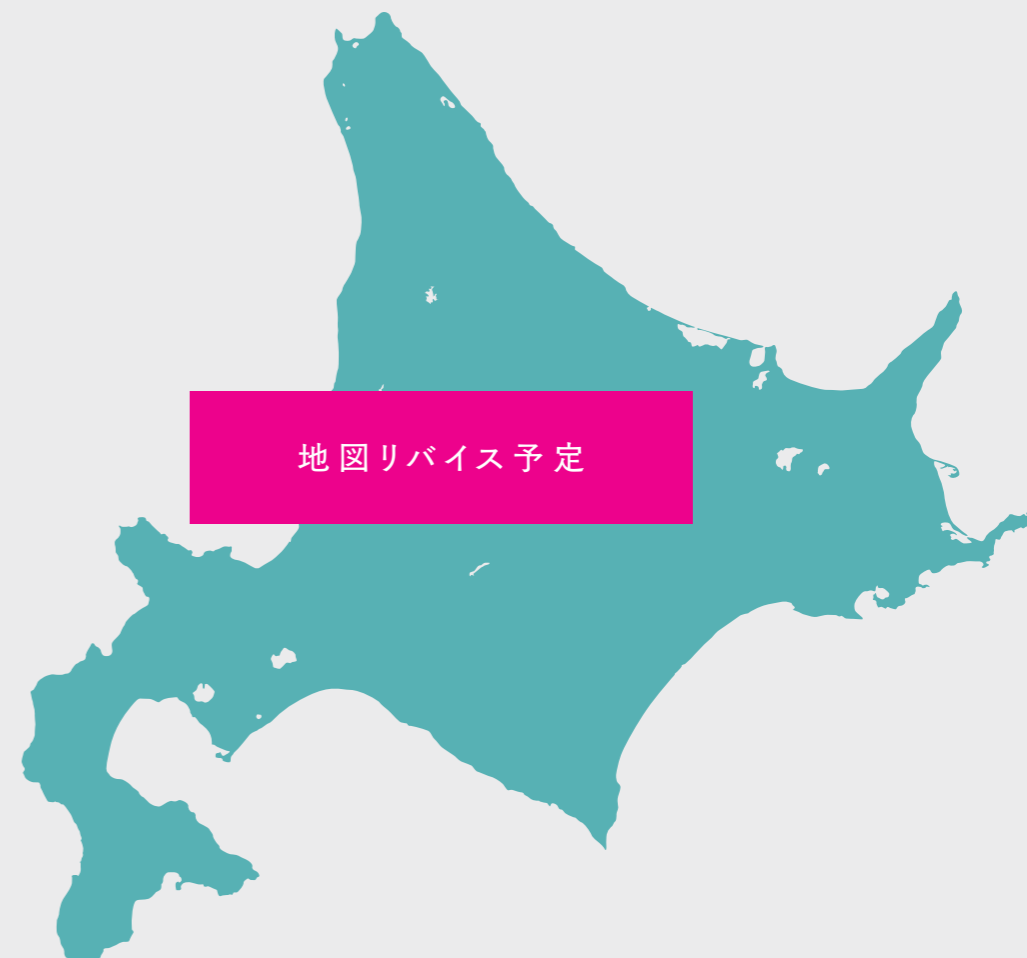
STORY 1 自然と生命	
1-1 流水からはじまる海・川・森のサイクル その豊かな恵みをいただく	00
1-2 陸のヒグマ・海のシャチ・空のオオワシ 自然の王者に囲まれ、人間の小ささを実感する	00
1-3 人類にとって不可欠な「ありのままの自然」の存在 地球は誰のものか気づかせてくれる場所	00
コラム 01 漆黒の闇	00
STORY 2 地理と景観	
2-1 火山活動により海底から隆起した山々 その軌跡を自らの足で確かめる	00
2-2 火山が生み出した奇跡のアクティビティ 「カムイワッカ湯ノ滝のぼり」	00
2-3 急峻な地形が生み出す絶景と強風 人間の五感に訴え野生を呼び覚ます	00
コラム 02 ありのままの自然	00
STORY 3 歴史と文化	
3-1 オホーツク人、アイヌ文化、津軽藩士… 力強く、しなやかに生きてきた人々の軌跡	00
3-2 厳しい自然の中で「りょう」を生業とする 漁師と猟師の誇りと生命力	00
3-3 人間が開拓した土地を、原生の森に戻す 「しれとこ100平方メートル運動」	00
コラム 03 西日に向かって走る	00
STORY 4 暮らしと産業	
4-1 知床の生命のサイクルとつながる 海の幸と山の幸を味わう最高の贅沢	00
4-2 ツーリストとローカルが出会う温泉めぐり 暮らしや地質・風土を肌身で感じる	00
4-3 遥か昔から続く四季折々の特徴的な暮らし 訪れるたびに知らない体験ができる	00
コラム 04 光あふれる知床の冬	00

第3部 計画編 ストーリーを活用し、伝えるための方法

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	00
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	00
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	00
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	00
コラム 05 仔ギツネ、親元に返る	00

第4部 インフォメーション・資料編 みんなで学び、伝えるシレットコのコト

知床をもっと知るためのおすすめの書籍	00
作成プロセスとWS	00
制作体制と今後の予定	00
索引	00





第2部では、知床を知り、守り、楽しむためのストーリーを、4つのカテゴリーにわけてご紹介します。

それぞれのカテゴリーには、3つのお話がありますが、ここに掲載されているものは、あくまでも一例にすぎません。この中のストーリーから今後さらに深掘りされていくもの、関連付けて複数にひろがっていくものなどもあるかもしれません。ストーリーはこれで終わりではなく、これからたくさん積み重なっていくでしょう。

まずは、気になるカテゴリーからぜひ読んでみてください。

# STORY

# 1

## 自然と生命

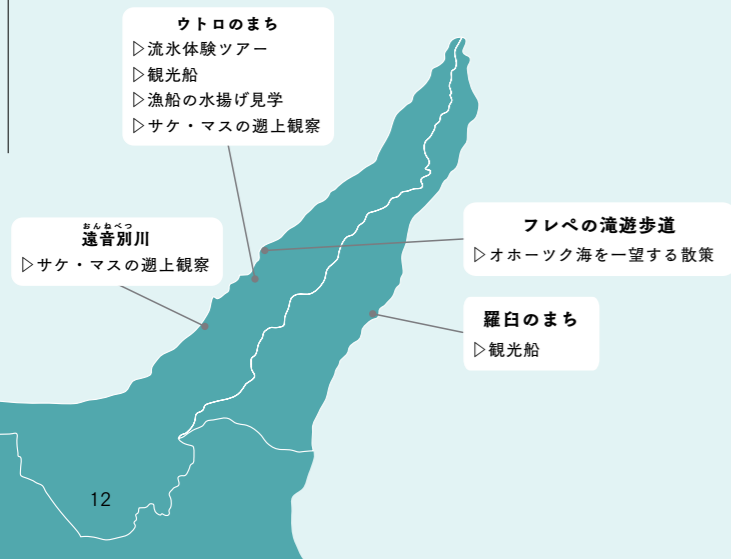


# 1 流水からはじまる海・川・森のサイクル 豊かな恵みの循環

流水を起点とした生態系は、海から陸へとつながり  
観光や漁業など人の営みにもつながっている

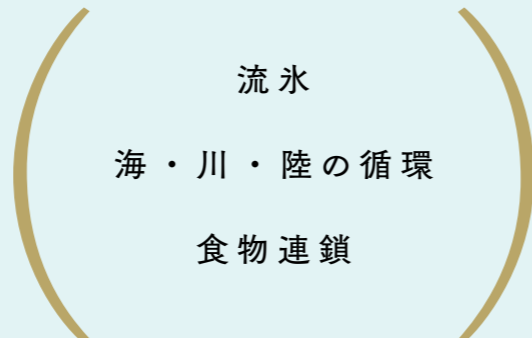
## Activity

ストーリーを伝える体験や場所



## Key Word

キーワード



1 オホーツク海を覆う流水。知床は、北半球において流水が接岸する最南端（南限）の地。

シベリア海岸のアムール川河口で生まれた流水は、季節風や海流によって1,000km以上も離れた知床に毎年やってきます。知床は、地球の北半球において、流水が見られる最南端の地でもあります。そんな流水は知床の人々の生活の一部となっています。流水によって季節の移り変わりを知らされたり、産業、特に漁業の時期が左右されていたりします。また、流水は、潮の干満や天候によって日々違う表情を見せてくれ、人々の目を楽しませてくれます。さらには、流水の上を歩く「流水体験ツアー」と呼ばれるアクティビティを通じて、人々は流水と直接触れ合い、流水を体感することもできるのです。



流水は、知床の海・陸の生態系のつながりの源となっていることも忘れてはいけません。流水が接岸している時期、特にオホーツク海側では、漁に出ることができなくなります。しかし漁師たちは、この時期を「海を休ませ、海を豊かにする時間」だと言います。それは、流水の下で資源が保護されるとともに、流水によって大量の栄養が運ばれてくることを知っているからなのです。流水の中に閉じ込められていた植物プランクトンが春になると大増殖し、それをエサにする動物プランクトンが大量

に発生します。今度は、これを食べるために魚が集まってくる、その魚を求めてアザラシやトド、大型の鯨類たちがやってきます。そして、生態系のトップに君臨するシャチがあらわれます。このように知床の海には流水を起点とした食物連鎖が形成されているのです。



また、流水は海の生物だけでなく、陸の生物の命も育ててくれます。豊かな海から川の上流を目指して遡上するサケ・マスは、ヒグマや、オジロワシ、シマフクロウなど猛禽類の重要な食物資源となります。これらの動物たちの糞は、今度は土に還って森の栄養分となり、最後は雨水とともにまた海へと戻っていきます。

このように知床では、流水を起点とした海 - 川 - 陸の壮大な循環のストーリーがあるのです。流水はまさに知床の生命の起源である、と言ってもいいでしょう。

1 ドライスーツを着て流水を体験する人気のガイドツアー  
2 海・川・森をつなぐ豊かな生態系のサイクル (環境省HP)  
<https://www.env.go.jp/nature/isan/worldheritage/shiretoko/uiiversal/index.html>



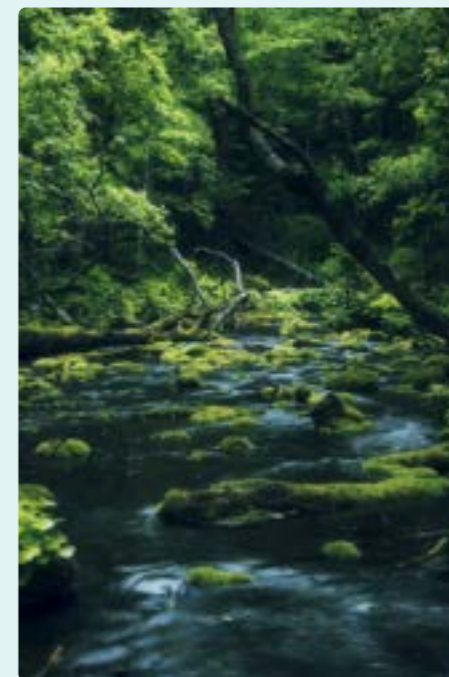
3



4



5



6

3 流水に覆われたオホーツク海沿岸では、漁船が陸に引き揚げられて並ぶ冬ならではの光景が見られます。  
4 絶滅危惧種・天然記念物に指定されているオジロワシは、冬にロシアからやってきて越冬する国内最大級の大型猛禽類。一部のオジロワシは北海道に留まり繁殖しているため、知床では季節を通して日常的に目にすることができます。  
5 カラフトマスを捕まえるヒグマの仔。サケ・マスを捕食した陸上動物の糞が、知床の森を育む養分になります。  
6 森の栄養分は河川を通じて海へと供給されます。